

茶有望品種「さえあかり」の特性					
[要約] 本県における「さえあかり」の特性は、「さえみどり」と同等の品質で多収、炭疽病および輪斑病抵抗性が強い、「やぶきた」より3～4日早いヤヤ早生品種である。					
佐賀県茶業試験場 茶樹研究担当				連絡先	0954-42-0066
部 会 名	茶業専門部会	専 門	栽培	対 象	茶

[背景・ねらい]

系統適応性検定試験第10群から「さえあかり」（旧系統名「枕崎30号」）が品種出願公表されたので、普及の参考とするため本県への適応性を示す。

[成果の内容・特徴]

1. 萌芽期および摘採日は、「さえみどり」より1日遅く、「やぶきた」より3～4日早い、ヤヤ早生の品種である（表1）。
2. 収量は、一番茶および二番茶ともに、「さえみどり」および「やぶきた」より多い（表2）。
3. 荒茶品質は、一番茶および二番茶ともに、「さえみどり」と同等で、「やぶきた」より優れる（表3）。
4. 病害虫抵抗性は「さえみどり」と同等で、炭疽病および輪斑病抵抗性は強で、クワシロカイガラムシにはやや弱い（表4）。

[成果の活用・留意点]

1. 品種特性を活かすために早場地帯に導入し、防霜対策を徹底する。
2. 炭疽病多発条件では防除が必要である。
3. 苗の購入は、許諾を受けた育苗業者から行い、またミカントゲコナジラミ（チャ系統）発生地域からの導入は行わない。
4. 品種の詳細な特徴の問い合わせ先
農研機構 野菜茶業研究所 <http://vegetea.naro.affrc.go.jp>
5. 施肥管理
定植活着後、被覆肥料でN:P₂O₅:K₂O=27.4:23.5:27.4 (kg/10a)を施用し、3年目以降はN:P:K=50:20:24(kg/10a)を3年生で55%、4年生で70%、5年生で85%、6年生以降100%の割合で施用した。

[具体的データ]

表1 一番茶萌芽期および摘採日

品種	2007年		2008年		2009年		3カ年平均	
	萌芽期	摘採日	萌芽期	摘採日	萌芽期	摘採日	萌芽期	摘採日
さえあかり	4.2	4.30	3.31	4.30	3.25	4.18	3.29	4.26
さえみどり	3.31	4.27	3.30	4.30	3.22	4.18	3.28	4.25
やぶきた	4.8	5.3	4.6	5.4	3.26	4.22	4.3	4.30

表2 生葉収量

(Kg/10a)

品種	2007年		2008年		2009年		3カ年平均	
	一番茶	二番茶	一番茶	二番茶	一番茶	二番茶	一番茶	二番茶
さえあかり	239	286	395	386	227	554	311	470
さえみどり	161	212	299	337	280	321	247	290
やぶきた	230	157	217	306	280	360	242	274

z: 2007年は定植5年目に当たる。

y: 畝間180cm、株間30cmの単条植え。

表3 普通審査法による荒茶品質

品種	一番茶						二番茶					
	形状	色沢	香気	水色	滋味	合計	形状	色沢	香気	水色	滋味	合計
さえあかり	9.3	8.5	8.0	7.7	7.7	41.2	5.5	6.0	5.8	5.7	5.2	28.2
さえみどり	8.8	8.7	9.0	8.3	7.8	42.6	6.0	5.8	6.0	5.8	5.5	29.1
やぶきた	8.2	8.2	7.8	7.8	8.0	40.0	4.7	4.7	4.3	5.0	4.5	23.2

z: 2007～2009年の平均値、各項目10点、合計50点満点での評価

表4 病害虫発生程度

品種	炭疽病	輪斑病	クワシロカイガラムシ
さえあかり	1.7	1.0	2.0
さえみどり	1.7	1.0	2.0
やぶきた	3.3	2.0	2.7

z: 2007～2009年の平均値、(無)1～(甚)5。

y: 殺菌剤散布およびクワシロカイガラムシ防除は無し。

[その他]

研究課題名：優良品種導入のための県内適応性検定及び栽培法の確立

予算区分：県単

研究期間：2001～2022年

研究担当者名：中村典義・徳重憲治・釘本和仁・東島敏彦・山口史子

発表論文等：茶業試験研究成績・計画概要集（2003～2009年）